

vol. 04

令和元年度 第4号
(年間4回発行 通巻第154号)

組合活性化情報 中央会とくしま

特集

四国の元気な組合を紹介します

徳島県中小企業団体中央会 <http://www.tkc.or.jp/>



組合活性化情報 中央会とくしま

vol. 04

令和元年度 第4号
(年間4回発行 通巻第154号)

特集

四国の元気な
組合を紹介します

2

組合クロズアップ 第4回

協同組合 徳島県機械金属工業会

10



有限会社岡松バラ園

12

組合ホットニュース

16

- ◎協同組合徳島県解体工事業協会
鳥取県・岡山県・兵庫県の組合等と災害時相互支援協定を締結
- ◎鳴門市大道商店街振興組合
第14回「100円商店街」を開催
- ◎徳島市両国本町商店街振興組合
トランスボックス（配電用地上機器）
アートデザインコンテストを開催
- ◎徳島市指定上下水道工事店協同組合
新組合会館が完成

情報連絡員レポート

令和元年12月の景気動向

18

青年部コーナー

◎青年部活動トピックス

◇令和元年度 商工3団体青年部四国トップ会議◇ 他

19

女性部コーナー

◎女性部活動トピックス

◇エフエム徳島 42.195km リレーマラソン in 徳島中央公園◇ 他

21

中央会トピックス

◎令和元年度モデル組合が決定されました

徳島県鉄骨構造協同組合／協同組合徳島総合流通センター

◎エコアクション21認証10年継続事業者感謝状贈呈式／
環境経営セミナーを開催

◎中小企業使えるBCP訓練モデル事業・BCP図上訓練を
開催

23

中央会事務局職員

十人十色

◎組織支援課主事 藤原 有希

27

編集
後記



表紙絵

作者：徳島県中小企業団体中央会顧問 布川 嘉樹氏

タイトル：「春色望景 菜の花の里・江田」

徳島県の中央部に位置する美しい山里「江田」。山村を元気にしようと地区を挙げて棚田で菜の花づくりに取り組んでいます。高台から見下ろす2.5ヘクタールの黄色い絨毯は圧巻で見頃は3月中旬から4月中旬です。



特集

四国の元気な組合を紹介します ～令和元年度組合資料収集加工事業から～

昭和 57 年度から全国中央会と都道府県中央会が連携し、環境変化に対応した共同事業などに先進的に取り組んでいる組合の諸事例を収集して、その活動や共同事業の手法などを他組合へ移転することを目的に、組合資料収集加工事業を実施しています。

令和元年度の収集テーマは、「A. 積極的な情報発信による活性化」「B. 連携」「C. 社会貢献・SDGs」「D. その他の特徴ある活動」の 4 つを取り上げ、専門家の協力を得ながら詳細な調査・分析を行いました。本誌では、これらのテーマに取り組んでいる四国の先進組合事例の抄録を紹介いたします。

A 積極的な情報発信による活性化

日本手袋工業組合（香川県）

■住 所 香川県東かがわ市湊 1810 - 1
■設 立 昭和37年12月
■出 資 金 44,442千円

■電 話 0879-25-3208
■組合員数 68人
■主な業種 手袋製造業

キャッチ
フレーズ

資料館において、
外国人向けに QR
コードで翻訳説明

事業・活動実現の
キーファクター

事務局長が時代の変化を感じ取り、それに
応じた施策を提案できたことが事業のキー
ファクターであり、アイデアパーソンが存在
することが重要である。

1. 背景・目的

組合事務局のある東かがわ市は、130 年余りの歴史を持つ日本で最大の手袋の産地であり、平成 20 (2008) 年に伝統的な手袋及び手袋製造技術の保存と継承活動のため「香川のでぶくろ資料館」を開館し、さらに、「香川のでぶくろアウトレット店」を開設している。

近年、インバウンドの増加により、同資料館にも多数の外国人が訪れており、短時間での説明の負担が増加しているとともに、説明内容が伝わりにくい状況が生じている。そこで、説明の効率を上げ、正確に伝えるための工夫として、QR コードを導入するに至った。

2. 取組みの手法と内容

近年、組合員企業が取引先の外国人（主に中国人）を連れてくるケースが増加し、手袋についての理解を促進するために資料館の内容を正確に伝えるべく、外国語での説明の必要性を認識していた。さらに、平成 25 (2013) 年頃より、「韓国人の香川ツアー」客が相当増加し、同資料館にも立ち寄るようになったため、僅かな時間の間に説明をして、アウトレット店での買い物を捌かねばならず、説明の効率を上げる必要性も認識した。

以上の状況を元に、事務局長が QR コードの導入を発案、平成 30 (2018) 年に英語、中国語、韓国語

についてシステムの導入が完了し、翌年から稼働している。展示物について日本語の説明文が書いてあるスペース付近にQRコードがあり、これに向かってスマートフォン等をかざすと、英語、中国語、韓国語の説明文を読むことができるようになる。

3. 成果とその要因

導入前は資料館の利用が低調であった組合員においても、取引先の外国人を喜んで連れてくるようになっている。そして、資料館の利用をより促進するために、幅広い層に対応したテーマパーク化を考えている。また、各種ノベルティグッズを企画し、販売したいとしている。

さらに組合員企業の海外進出に伴い、カンボジア、ミャンマー、ラオスなどの東南アジア諸国からの来訪者も増加することが予想される。今後はこれらに対応するべく、多言語化を視野に入りたい。



香川のとぶくろ資料館



各展示物に3カ国語に対応したQRコードを設置

愛媛県繊維染色工業組合（愛媛県）

■住 所 愛媛県今治市蒼社町2丁目1番4号
■設 立 昭和40年11月
■出 資 金 57,900千円

■電 話 0898-32-0455
■組合員数 9人
■主な業種 タオル用原糸の染晒加工

キャッチ
フレーズ

染色業界の技術・
提案力を発信する
今治カラーショー

事業・活動実現の
キーファクター

コミュニケーションの充実を図り、組合員の団結力を高めることができた。
繊維染色産業基盤強化検討委員会を発足し、愛媛県や今治市などもオブザーバーとして参加し、官民一体で事業を進めたことも大きな要因である。

1. 背景・目的

今治タオルブランドは、安心・安全・高品質として高い技術力訴求とイメージアップ施策を実施して成功しているが、一方で、その品質を支える染色業界は高い技術に自信と誇りを持っているものの、これまで対外的に情報発信してこなかった。そこで、染色業界の認知度向上のために情報発信を行い、人材不足等の染色業界全体のさまざまな問題の解決につなげたいと考えた。

2. 取組みの手法と内容

事業実施以前は、組合理事の高齢化が進み、組合員各企業の世代交代の時期と重なっていた。若手後継者同士のつながりは以前と比べ希薄となっていたが、理事長を中心に先進地視察を行うなど、組合員同士の接点を増やし、コミュニケーションの充実を図ることで組合員の団結力を高めた。

その後、繊維染色産業基盤強化検討委員会を発足し、愛媛県や今治市などにもオブザーバーとして参画してもらい、勉強会を重ねた結果、2016年度より3カ年事業として、「今治カラーショー」をはじめとする一連のプロジェクトを実施することとなった。本事業で活用したのは、今治市の「繊維染色産業基盤強化事業費補助金」で、今治の染色技術を知ってもらい、組合員のプライドを高め、一致団結して高付加価値化を目指すとともに、将来に向けた課題解決のきっかけにしたいと考えた。

情報発信イベントである「今治カラーショー」は、2017年12月に東京青山のスパイラルガーデンにて開催し、建築家・デザイナーのエマニュエル・ムホー氏による、染色に必要な染料の調合割合や温度湿度、時間の概念をキーワードに、「1000色のレシピ」として視覚的に表現した作品を展示した。1千色もの膨大な生地は組合員8社で分担して染め、会場では併せて染色技術の展示も行った。また、本イベントは、2018年2月に今治市みなと交流センターでも同様に開催し、地域住民に対して染色業界をアピールしてきた。同様に2019年3月にも、今治市公会堂の客席シートカバーを1000色で彩るインスタレーションを実施している。

3. 成果とその要因

「今治カラーショー」で収集したアンケート調査結果によると、インスタレーションについては9割以上の来場客から好評だったという結果を得ている。また、今治タオルの品質への染色業界の関与について、来場者の約3割は知らなかったが、展示物の鑑賞とオープンファクトリーによる体験を通して認知してもらうことができた。

また、新卒人材の採用につながった組合企業も出始めている。これにより、労働力や後継者の不足、技術者の高齢化等による技能継承の課題について、徐々に解消されていくことが期待される。

IMABARI Color Show 2020

「みんなで考える染色の未来」

会期：2020年2月26日〔水〕～3月1日〔日〕

時間：10時 - 18時【入場無料】 / 会場：今治市公会堂

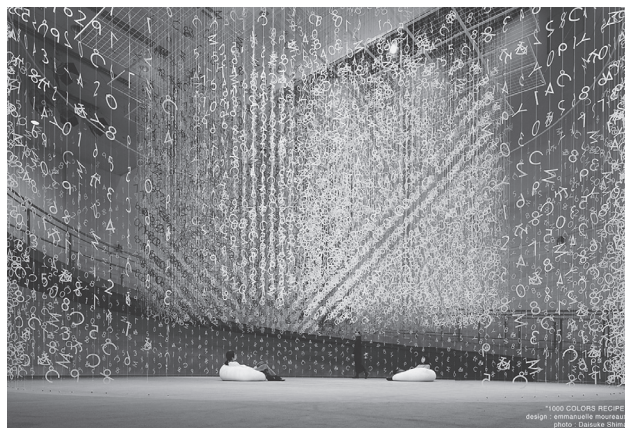
IMABARI Color Show

2020

今治の染色技術を紹介する展覧会「今治カラーショー」



インスタレーション（1000色の波）



インスタレーション（1000色のレシピ）

B 連 携

仁淀川林産協同組合（高知県）

■住 所	高知県吾川郡仁淀川町上名野川490番地	■電 話	0889-20-0759
■設 立	平成23年10月	■組合員数	19人
■出 資 金	8,200千円	■主な業種	素材生産業・製材業

キャッチ
フレーズ

地域連携で資源の
確保と持続的な林
業の実現を目指す

事業・活動実現の
キーファクター

森林情報の一元管理・施業集約化・原木の
安定供給・担い手確保等、地域の林業が抱
える課題に官民一体となって取り組んだこと
が地域循環型の産業形成につながっている。

1. 背景・目的

高知県は森林率 84%と全国一位であり、仁淀川町は 89%と高知県の中でも屈指の森林率を誇る地域である。戦後、高度成長期に植林されたスギやヒノキなどの人工林が本格的な伐採期を迎える中、当組合は原木等の地域内流通、輸送コストの負担減少や山主の利益確保等、林産業の活性化を目的として設立された。

2. 取組みの手法と内容

＜仁淀川町森林管理推進協議会による活動＞

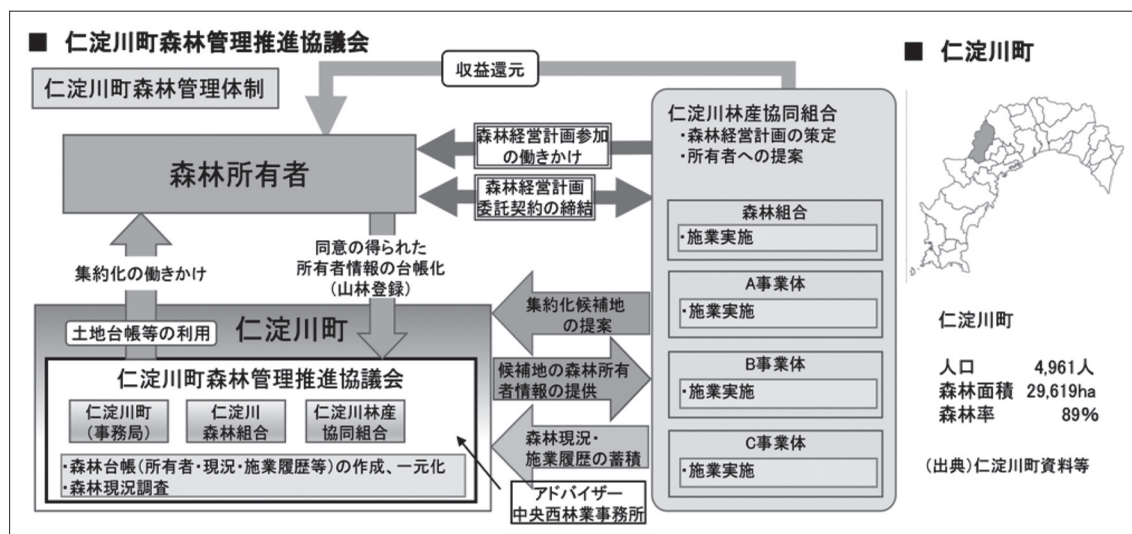
平成 27 年 12 月、仁淀川町、森林組合と当組合が「仁淀川町森林管理推進協議会」を設立。

森林所有者や山林情報を確認・整理し、林齢・施業履歴等の情報集約化により山林全体の資源量把握や情報を一元化する体制を構築した。当組合は所有者と森林管理委託契約を締結、森林経営計画を策定し森林組合や組合員事業者へ施業を発注している。

＜林業研修生の受入＞

仁淀川町では、自伐林家の高齢化や事業体の施業班不足によって搬出材積が低迷するなど、労働力確保が大きな課題となっている。そこで林業に関する知識や技術を習得する優れた人材を育成し、町の林業・木材産業へ従事することを目的として「林業再生プロジェクト・林業後継者育成事業」を実施し、当組合との連携によって「仁淀川町林業研修生制度」による受入を開始した。

研修期間は 1 年間で、研修後は研修先や町内の林業関係企業に就職してもらうこととしている。研修実施前に 2 泊 3 日の研修受入先の視察・体験ツアーもあり、研修期間中は手当も支給される。当組



四国森林管理局「四国における地域の森林管理の取組事例」（令和元年 8 月）より抜粋

Niyodogawa Forestry

申込みから就職まで 制度の流れ



1	申込み	募集要項を取り寄せ内容を確認のうえ、「仁淀川町林業視察・体験事業参加申込書」を提出してください。 ※すでに経験のある方は事前ツアーの参加は強制しません
2	視察・体験 (希望者のみ)	現場の視察・体験をしていただく、事前ツアーです（次項目参照）。研修終了後にはレポートを提出していただきます。
3	選考	「仁淀川町林業家育成研修事業参加申込書」を提出してください。その後、選考いたします。
4	研修期間 (1年間)	受入れ事業体で1年間の研修を受けていただきます。その間に必要な資格も取得できます。
5	就職	仁淀川町内の林業分野の事業体に就職していただきます。

林業系の資格取得について

研修期間中に、高知県森林研修センターにて講習を受け、林業に必要な各種資格取得を行なっていただきます。
【取得予定資格】チェーンソー特別教育・刈払機取組作業安全衛生教育／玉掛技能講習／小型移動式クレーン技能講習／車両系建設機械運転技能講習（整地等）

「仁淀川町林業研修生制度」パンフレットより抜粋

合は、研修生の専用住宅施設の家賃を負担しており、研修生を受け入れた企業には重機の貸与も行っている。

同制度は平成28年度に開始され、これまで4年間の取組みで23名が研修を行い、約8割の就職につながっている。

3. 成果とその要因

組合活動の拡大に伴い組合員が年々増加しており、原木流通量も設立時の約4倍に増加している。当組合と仁淀川町の取組みは近隣の越知町、佐川町にも拡大し、平成29年に仁淀川町を含む3町の官民連携による「高吾北地域原木安定供給協議会」が発足。国のモデル事業指定を受け森林資源の安定供給を目指した取組みを行っている。

C 社会貢献・SDGs

協業組合徳島印刷センター（徳島県）

■住 所 徳島県徳島市問屋町165番地
■設 立 昭和47年12月
■出 資 金 20,000千円

■電 話 088-625-0135
■組合員数 3人
■主な業種 印刷業

キャッチ
フレーズ

「社員の健康＝企
業の健康」楽しみ
ながら健康づく
り！

事業・活動実現の
キーファクター

職場の健康づくりに大切なことは楽しみなが
ら継続することである。上層部からの強制で
はなく社員全員の組織「親睦会」が中心に
なり、様々な健康づくり活動を楽しく行うこ
とができている。

1. 背景・目的

少子高齢化社会が深刻化している今、さらなる生産性の向上と労働力の確保が求められている。そこで、当組合は、すべての社員が健康で働きがいを持つことが、組合の経営理念の一つでもある「高品質なサービスの提供」につながると考え、社員の健康管理を経営的視点から捉え戦略的に実施している。

2. 取組みの手法と内容

当組合は、平成 18 年に健康づくりの取り組みを推進するため徳島県が実施している「健康とくしま応援団」に「社員の健康＝会社の健康」というスローガンで登録したことをきっかけに、より積極的に健康経営に取り組むことになった。以来約 13 年にわたり、実施項目を追加しながら更新を続けている。平成 22 年には、組合敷地内全面禁煙を実現し、平成 26 年からは、定期健診・がん検診・健康指導において受診率 100% を達成している。

また、すべての社員が、様々なライフステージを経験する中で、心身ともに健康に働き続けられるようにと、平成 24 年には「くるみんマーク」を取得した。また、「子育てにやさしい職場環境づくり」に積極的に取り組んでいる企業が徳島県により認証される制度である「はぐくみ支援企業」認証も平成 30 年に取得した。

さらに、社員相互の健康を確認し合い、運動の必要性を自覚できるように、毎年 1 回社員バレーボール大会や社員旅行を実施している。社員の健康づくりに関する大きな方針は理事長が決定している。内容や実施方法は社員全員で組織する「親睦会」が行っており、理事長との話し合いにより決定し、実行している。

このような取り組みを行うことで、社員が自然と健康を意識する状態となり、多くの社員が自発的にスポーツを楽しむようになっている。

3. 成果とその要因

社員の健康保持・増進に取り組むことで、社員の活力向上や生産性の向上など組織の活性化が促進され、業績の安定や従業員満足度の向上に良い効果を及ぼしている。社員 30 名中 23 名が 10 年以上の勤続者であり、知識と経験を持った社員が長くいきいきと健康に働けることが、お客様に高い価値を提供することにつながっている。



社員バレーボール大会



社員旅行



取り組んでいる SDGs

本場さぬきうどん協同組合(香川県)

■住所 香川県高松市宮脇町1丁目8番21号
■設立 昭和36年1月
■出資金 3,992千円
■主な業種 製麺業又はラーメン、そば、うどん店

■電話 087-831-7492
■組合員数 64人

キャッチ
フレーズ

廃棄麺類をフード
バンクに提供し、
食品ロスを軽減

事業・活動実現の
キーファクター

代表理事が時代の要請を感じ取り、それに
応じた対応をできたことが事業のキーファク
ターであり、代表理事が社会貢献を目指した
ことが重要である。

1. 背景・目的

まだ食べられる食品が廃棄される食品ロスは、昨今の「もったいない」精神の浸透とともに注目を集めつつある。組合員においては、各々が生産している冷凍麺、生麺、ゆで麺の賞味期限に近い在庫の処分に頭を痛めており、有効に活用する方途を模索していた。平成27(2015)年に、代表理事の所属する組合員企業に対して、土庄町社会福祉協議会より「学童保育施設に提供してくれる食物はないだろうか」との打診があり、これについて代表理事が快く自社製造の賞味期限が近い冷凍うどんの提供を申し出た。

2. 取組みの手法と内容

代表理事が課題の所在を認識し、広く組合員企業に呼びかけたところ、香川県内の多くの地域で同様な提供の申し出があり、組合を挙げて、「再使用・リユース」の形態で食品ロスの軽減に取り組むことになった。現在は、香川県内の「各市町社会福祉協議会」と「特定非営利活動法人フードバンク香川」が連携して運営している食糧支援「香川おもいやりネットワーク事業」として、食品(麺類)の提供を日常的に実施している。その流れは提供側(組合員企業)と受取側(要支援生活者や子ども食堂など)の橋渡しをしているフードバンク香川から見ると、以下の通りである。

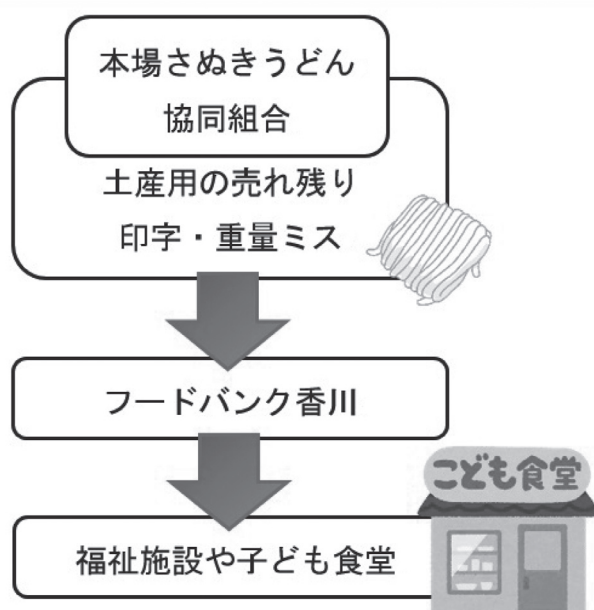
①食品提供の連絡を受ける。→②食品の種類・量・消費期限等のデータを受取側と事務局で情報共有する。→③提供側の指定する場所、または提供側が運びやすい場所で、食品を引き取る。→④食品を必要とする受取側へ引き渡す。

現在は、まだ一部組合員の参加に留まっているものの、多くの組合員が食品ロスの問題に真摯に取り組まなければならないという機運は醸成されつつある。

3. 成果とその要因

当該事業に参加している組合員は、該当地域の受取側が喜んでいるとの報告を受け、社会貢献できたと喜んでいる。さらに、要支援生活者や学童保育の実態についての具体的理解が進み、新たな社会貢献はできないものかと考え始めている。

今後は、組合員企業の1社でも多くの参加を推進していくとともに、全国的に麺業界の参加を呼びかける所存である。同組合の代表理事は「全国製麺協同組合連合会」の会長でもあるため、実現する可能性は高いものと思われる。



うどん廃棄削減の流れ

企業組合遊子川ザ・リコピンズ（愛媛県）

■住 所 愛媛県西予市城川町遊子谷2370番地 1
■設 立 平成28年 6 月
■出 資 金 260千円

■電 話 0894-89-1663
■組合員数 23人
■主な業種 農業

キャッチ
フレーズ

遊子川トマトで
まちづくり
ひとづくり
わかづくり

事業・活動実現の
キーファクター

組合員をトマト農家に限定せず、住民全員による地域づくり組織としてプロジェクトチームの基盤をつくり、地区一丸の体制を早期に確立できたことが、成功要因である。

1. 背景・目的

西予市城川町遊子川地区では、高齢化と人口減少が年々加速し、基幹産業である農林業の担い手不足や地域行事の停滞などさまざまな問題が生じていた。そこで、同地区では全住民を対象とした任意団体「遊子川地域活性化プロジェクトチーム」（通称：遊子川もりあげ隊）を設立し、過疎地域の活性化を図ることとした。

2. 取組みの手法と内容

同地区ではシイタケ、柚子などさまざまな農作物が栽培されるが、なかでも約 50 年前から続くトマト栽培は特に盛んで生産量・生産者数ともに多いことから、同プロジェクトチームは地元産の桃太郎トマトに着目。出荷できず廃棄されていた規格外トマトを活用し、地域特産品の開発・製造・販売活動を通じて地域内外の交流を促し、過疎地域の活性化を図ることとした。平成 23 年 9 月に特産品開発に着手し、旧 JA 店舗を加工所兼農家レストランに改修。平成 26 年には開発から製造・販売に至る体制を整備した。その後、加工品および農家レストランの売上増加に伴って、雇用安定化と信用強化を図るため「遊子川ザ・リコピンズ」に名称変更。平成 28 年 4 月には企業組合として法人登記し、組織体制を強化した。

素材である桃太郎トマトの生産ノウハウはあるものの、商品開発および加工製造に関するノウハウが乏しいため、行政機関からの紹介を通じて外部専門家の技術指導を受けるなど、ノウハウ不足を補った。

事業推進においては、毎月 1 回の定例会により組合員のコミュニケーションを密にすることで、情報共有の推進と、スムーズな課題抽出および解決策の実行に努めた。このようなコミュニケーション基盤の上で組合員が平等に発言権を持つ合議的な意思決定が、当組合の特徴である。



商品写真

3. 成果とその要因

地域 PR 映画の舞台にもなった農家レストラン「食堂ゆすかわ」では、トマト加工品販売のほか、地元野菜を使った料理を提供することで、地元の味を求める入込客を呼び込み、交流人口が増加した。さらに、出荷できず廃棄されていた規格外トマトの収益化に成功し、生産者の収益向上、地域経済発展と活性化に寄与した。



メンバーパンフレット裏

本会は、多種多様な業種の組合等が会員となっていていただいています。各組合がその特徴を活かし日々活動が続けており、今後の組合活動のご参考になるよう、会員の皆様方の仲間を取材し、紹介していきます。

協同組合 徳島県機械金属工業会

徳島の中小メーカーの強みを結集し、業界の成長へスクラム！

■ 組合の設立背景と現況

協同組合徳島県機械金属工業会の前身である徳島県機械金属工業連合会は、昭和42年9月に設立され、会員相互の連絡協調及び自主的な経済活動を促進し、業界の改善発達を図り本県産業経済の発展に寄与するため、技術開発の助成、技術者表彰等の各種事業に取り組んでいました。

その後、各種事業を本格的かつ積極的に展開するとともに、急激な産業構造の変化等に対応していくため、業界の意思統一を図り、昭和63年5月に現在の協同組合徳島県機械金属工業会に改組し、組合員が212社に増え、平成7年には最大となる245社までに拡大しました。

現在、経済産業省の「地域未来牽引企業」や「中小企業IT経営力大賞」をはじめ、中小企業庁の「元気なモノ作り中小企業300社」に選定された企業など、優れた技術力や競争力を持つ食品機械、電気機械、精密機械、金属加工、自動車関連といった機械金属製造業の中心を担う企業の多くが当組合に加入しています。

また、当組合理事長が徳島県や経済団体などの各種審議会等の委員を務め、機械金属製造業の業界団体の代表として意見を求められるなど、基幹産業としての重責を担い、業界代表としての発展・向上に努めています。

■ 徳島ものづくりクラスターの推進

近年の産業構造の変化に対応するため、組合員企業間でのより強い連携によって新たな技術を生み出し、競争力の強化を図ることを目的に当組合では徳島ものづくりクラスターの形成を推進しています。

この取り組みにおいては、まずは、組合員企業間で工場見学を行いながら、会社の強みや課題を洗い出して連携の可能性を探ることとしています。

また、この取り組みを効果的に推進するため、徳島県から協力を受け、情報収集や取りまとめを担うコーディネータを配置して体制強化を図るとともに、大学や経済団体などの支援も受けることとしています。

現在、工場見学会と併せて、コーディネータによる各組合員企業への個別ヒアリング等も行いながら、ニーズや課題を聴取し、連携して取り組めるテーマの検討を進めています。

本クラスターの形成により、組合員各社の強みを共有し、複数の組合員企業の連携による仕事の受注、繁忙期に他の組合員企業に仕事の依頼をしやすい仕組みの構築のほか、中小企業単独では難しい新産業に対応した技術の研究や販売促進にも取り組んでいくこととしています。



徳島ものづくりクラスターの形成に向けた工場見学会

■ 販路開拓の推進

組合では、組合員企業が開発した製品等を各種展示会に出品し、出展企業の販路及び需要の開拓、また、新素材・新技術を使用した新商品を広くPRすることが重要であると考えています。

特に、徳島県、徳島市、経済団体等で構成する徳島ビジネスチャレンジメッセ実行委員会が主催する同メッセについては、事業協同組合として唯一の後援団体となるとともに、毎年組合員企業出展のためのブースを設け、県内機械金

属業界の持つ優れた技術を発信しています。

また、徳島県等が主催する大企業とのマッチング商談会や東京・大阪等の大都市圏における展示商談会などに率先して参加協力を行い、県内機械金属業界の受注機会の拡大を図っています。



機械金属工業会見本市 in 徳島ビジネスチャレンジメッセ

■ 協同組合鳥取金属工業会との災害時組合間連携協定の推進

大規模災害等様々な脅威に備えるため、平成26年5月に鳥取県中央会と徳島県中央会が締結している災害時中央会間連携協定に基づき、平成29年2月に、当組合は、協同組合鳥取金属工業会と組合間連携協定を締結しました。

同協定では、協定先組合及び組合員企業が地震等の大規模災害時に被災した際に、支援側組合が応援支援物資や資材の供給、復旧作業に従事する人材派遣等を定めたものであり、その実現のため平常時から交流を図る内容となっています。

協定締結後、毎年両県において、企業視察、意見交換会等を開催し、相互交流を行っており、今後も、組合では、正確な情報を早く伝える工夫をするとともに、両県が協力してネットワー



協鳥取金属工業会との災害時組合間連携協定書調印式

クを大きくしていき、有事に対応できる体制を構築していくこととしています。

☆業界の将来を見据えた今後の活動

徳島県は、全国的な大企業が立地する企業城下町ではなく、様々な分野で活躍する企業があるのが特徴となっています。このような特徴のため、以前から企業同士の繋がりが薄い原因となっていますが、逆に強みとして捉えることができます。

近年、電気自動車の開発などで新たな産業分野が成長する一方、既存産業が衰退するなどして産業構造が変わりつつあり、組合員企業は危機感を抱いています。加えて、競争激化や経営者の高齢化等で、企業数が減少している状況にあります。

そこで、組合では、これまで組合員企業の製品や事業のPR、研修会の開催などを行ってきましたが、組合員企業間の連携事業に注力していくこととしています。

産業構造の変革に対応するためには、業界の垣根を越えた技術の活用や情報発信によって、新たな技術や需要を生み出す必要があると考えています。他業界の技術を組み合わせれば、新たな可能性が生まれます。企業を永続させるためには、長期的な視点で様々な可能性を模索していかなければならないと考えています。

今後も、機械金属業界の次に進むべき方向性を考え、産業構造の変化が激しい時代に遅れをとらないよう、様々な事業に取り組み、業界の活性化に繋げていきたいと思っています。

組合プロフィール

協同組合 徳島県機械金属工業会

住 所：〒770-8021 徳島市雑賀町西開11番2

電 話：088-669-4638

F A X：088-669-4638

理事長名：植田 滋

業 種：鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、自動車・同附属品製造業、精密機械器具製造業

組合員数：134 社

設立年月日：昭和63年 5月10日



理事長

植田 滋 氏



有限会社岡松バラ園

中央会では、平成 24 年度から始まった補正事業「ものづくり補助金」の地域事務局として、ものづくり・商業・サービス分野において独自の事業展開に取り組む事業者を対象に、補助金交付や事業推進支援を行っています。このコーナーでは、本補助金を活用して成果を上げておられる県内中小企業の皆様方を「ものづくりの達人」としてご紹介しています。

第 21 回目は平成 27 年度にものづくり事業に取り組まれた『有限会社岡松バラ園』様をご紹介します。同社は、バラの成長速度の安定化・品質向上・ロス率の低下を目的に、環境制御システムを導入してハウス内の環境を最適に保つノウハウを獲得し、オリジナル品種の開発や生産力と品質の向上に取り組みました。

この度は、有限会社岡松バラ園代表の岡松計仁取締役にお話を伺いました。

1 御社の設立は平成 5 年 4 月とお聞きしています。バラ栽培を手がけようと思い立った動機とその後の歩みをお聞かせください。

私が生まれ育った淡路島は北側に花類、南側に野菜類の栽培が盛んな土地柄です。淡路島の北側にある東浦付近で私の祖父がカーネーションの施設栽培を始めましたが、父親の代になりカーネーションからバラ栽培に変更しました。その後、弟がバラ栽培を継いでいましたが、別の仕事をしていた母親が帰宅後、夜なべをしてバラ栽培を手伝っていました。違う道に進んでいた私は、母親の夜なべ仕事を見て、母親を助きたい思いから、バラ栽培の仕事を始めました。

バラ栽培を手掛ける決意をしてからは、父親等のバラを超えるような新しいバラを育てたいと思い、両親からは直接栽培の仕事の教えを受けずに、他のバラ生産者を視察するなどして、栽培の仕事を覚え、初めは個人経営で行ってきました。

徳島県内でバラ栽培のための土地を探していた時に、父親の知り合いのハウス業者の紹介による海陽町の土地が条件に合致しました。兵庫県の実験場に意見を聞くと、この土地は、元来沼地であったため、雨が多くハウスが沈下する恐れがあることから、バラ栽培に不向きで

あると反対されました。しかし、その反対を押し切り、海陽町に進出し、規模拡大のため平成 5 年に有限会社岡松バラ園を設立しました。



(有)岡松バラ園・ハウス



(有)岡松バラ園代表・岡松計仁取締役

徳島県と海陽町が土地を整備してくれていましたが、やはりハウスは沈下しました。また、バラ栽培には太陽の光が必要ですが、四方八方が山に囲まれていたため、周辺の山を購入して木を伐採し、日当たりを少しでも良くするように努めてきました。

バラは連作できますが、その弊害で枯れることがあります。またバラの病気を防ぐためには、同じ品種ごとに必ず消毒をするとともに、植え換えの時に良い菌を入れるために、土壌の改良をすることが必要です。

色々なバラ栽培農家を視察してそれぞれの良い所を取り入れ、栽培に活かし、現在の高品質（花が綺麗に咲く、花が腐らない、病気がついていない、花持ちが良い）のバラとなっています。

2

平成27年度のものづくり事業において「環境制御によるオリジナルバラ品種開発と品質、生産力の向上」と題したテーマに取り組みされました。この事業内容と成果についてお聞かせください。

バラの栽培は、照度、温度、湿度および炭酸ガスの管理が非常に重要であり、その管理状態が適切でない場合、成長速度に遅れや灰色カビ病（カビの発生による腐敗）が発生しやすくなります。



バラの形・団子花

特にバラの品種改良（団子花^{（注）}を母親にして、父親の花粉を付けて個性的な花を創る）の際には、100輪のうち、半分が腐ってしまう程病気の影響が出やすいので、ハウス内の環境を如何に最適に保つかが課題となってきます。

このような課題の解決を図るため、ものづくり補助金を活用し、ハウス内の環境を最適に制御することを可能にする複合環境制御システムを導入しました。その結果、品種改良の作業中の灰色カビ病の発生率が減少し、今では2～3割が腐る程度に低下し、品種改良の成功率が大幅に向上しました。

また、この複合環境制御システムにより、湿度や時間の記録を分析した結果、灰色カビ病は湿度が90%を超える環境が3～4時間続くと発生するということが判明しました。この分析結果をもとに、ハウス内の環境をきめ細かく制御することによりバラの生産力の向上に繋げることができました。

近年の異常気象のために、常に細心の注意を怠らないと様々な病気になり、美しいバラの花が生産できない環境になります。今後もハウス内の最適な環境の維持に努めていきます。



導入設備：複合環境制御システム

（注）団子花とは、バラの花びらが沢山重なり合い団子のように丸まった花の形を指す。

3 御社におけるバラのオリジナル品種の開発の経緯とその方法、気を使っている点などについてお聞かせください。

海外との競争が激化しているため、海外のバラに負けない品種を作ることが必要です。また、花屋からは、リピーター客を増やすために、個性的な美しいバラを売ることが求められています。さらに、オリジナル品種のバラは、海外からの輸入が多く、輸送の工程で傷つきやすくなるため、国内における新たなオリジナル品種の開発を強力に進めることが求められています。

オリジナル品種の商品化は、種を2万個まいて商品化できるのが1～2品種なので、如何に多くの種を採取できるかが課題となります。種を1万個まいても発芽率は約3割という状況です。バラの種は2～3か月間、冷蔵庫で冬眠させた後、種をまきその後2週間程で発芽し、花が咲くまで約2か月、トータルでは5か月程度かかります。

当社のオリジナル品種の開発は、団子花の母親にフリル系の花を掛け合わせて育てています。この掛け合わせをすると大きく豪華なフリル咲きの品種になります。オリジナル品種は、挿し木では生産能力が低下するので、一本でも多く花を採るため、接ぎ木で生産能力を向上させて

います。ちなみに、新しい花の名前は私が命名しています。

当社のバラのオリジナル品種は、現在約20種類あり、花の形の特徴としては、フリルのようにウェーブがかかっていることです。

バラのオリジナル品種は、ジャパンフラワーセレクション、徳島県花き展示品評会などに出品し、徳島県知事賞などの賞を受けています。また、海陽町ふるさと納税の返礼品にもなっています。オリジナル品種の開発が成功した時は、ホームページ、フェイスブック等に掲載し、花屋などに対して幅広く情報提供しています。

オリジナル品種の開発は、気の遠くなるような手間暇のかかる作業ですが、今後も人に感動を与えられる個性的なバラを開発していきたいと思っています。

4 バラ生産においては機械化が難しいために人手不足の問題があると聞いています。御社も外国人の労働者を雇用されていますが、コミュニケーション、生活支援等で苦労されていること、良かったことなどがあればご披露いただけますか。

切りバラの作業は、人が花の状態を一本一本確認しながら、採っていく必要がありますので、機械化することができません。現在、ベトナム



オリジナル品種の切りバラ



切りバラ作業場

人女性を7人雇用しています。日本語は、現地で勉強してきていますが、日々の会話等でコミュニケーションをとりながら、日本の生活習慣に慣れてもらうようにしています。また時々、一緒に買い物や日本文化財の見学に行っています。ベトナム人女性も、とても明るいので一緒に楽しく仕事できています。

5 バラ生産販売事業における国内外の今後の動向とそれに向けた御社の展開についてお聞かせください。

バラの生産者は年々激減しています。その原因としては、コストがかかること、灰色カビ病などの病気を発生させると生産者のイメージが悪くなり、回復させるのが難しいことなどが挙げられます。規模を拡大し、精密な品質管理をしなければ生き残っていけない状況にあります。それが出来ない生産者は、廃業です。

最近は海外から入ってくる蕾の大きいバラに押されています。海外に対抗するために今後も当社は、品質を重視して、オリジナル品種を多く産み出し、花屋や消費者に感動を与えることができるよう努力していきたいと考えています。



岡松社長と社長を支える奥様

【取材を通して】

岡松取締役が、「良い物を作っていれば、お客様は必ずついてくるので間違いない。」と力強く話され、バラのオリジナル品種の開発と品質向上に努力していることが、とても印象に残りました。

当日は、岡松取締役がバラを育成しているハウス内や切りバラの作業場を案内していただき、バラの生育に必要な環境を維持管理され、沢山のバラを我が子のように思っているように感じました。

岡松取締役様この度はお忙しい中ありがとうございました。

企業の概要

- 会社名 有限会社岡松バラ園
- 所在地 海部郡海陽町富田字南沢175-1
- 電話 0884-73-3717
- FAX 0884-73-0162
- E-mail rose-oka@mb.pikara.ne.jp
- HP <https://okamatsu-rose.jimdofree.com/>
- 代表者 取締役 岡松 計仁
- 設立年月日 平成5年4月
- 従業員数 18名
- 業 種 農業



組合ホットニュース

鳥取県・岡山県・兵庫県の組合等と災害時相互支援協定を締結 ～協同組合徳島県解体工事業協会～

協同組合徳島県解体工事業協会は、令和元年11月27日(水)鳥取県鳥取市のホテルモナーク鳥取において、鳥取県解体工事業協同組合、一般社団法人岡山県解体工事業協会、一般社団法人兵庫県解体工事業協会が災害時相互支援協定を締結しました。

本協定書は、大地震等の災害時に国及び地方公共団体等の公共機関から要請を受けた場合に、住民の避難地、避難路及び緊急輸送等の安全を確保するため、4県の組合等が、がれき処理等の支援をすることになっています。

今後、協定書の実効性を図るため、いざというときに直ちに行動できるよう、4県が平時から相互の連携を綿密にしていくこととしています。



調印式

第14回「100円商店街」を開催 ～鳴門市大道商店街振興組合～

鳴門市大道商店街振興組合は、令和元年12月14日(土)各店主が知恵を絞った商品、通常では購入できない商品、工夫を凝らした商品などを100円均一で提供する「100円商店街」を開催し、大勢の家族連れなどで賑わいました。

この「100円商店街」という事業の取り組みは、平成16年に山形県新庄市で始まり、現在全国100市町村の商店街で実施しており、商店街を1つの100円ショップに見立て、参加する全てのお店に100円コーナーを設置する事業です。



大勢の家族連れで賑わう商店街

今回は、同商店街とその周辺の店舗も含めた25店が出店するとともに、キャリア教育事業の一環として鳴門市撫養小学校の6年生が運営する模擬店舗6店が出店しました。

組合では、平成25年5月から年2回「100円商店街」を開催するなど、様々なイベントを開催することで、地域のコミュニティづくりや地域活性化に寄与していくこととしています。

トランスボックス（配電用地上機器）アートデザインコンテストを開催 ～徳島市両国本町商店街振興組合～

徳島市両国本町商店街振興組合は、令和2年1月9日(木)両国橋通りの両側にある四国電力のトランスボックス（配電用地上機器）へのアート作品展示を始めました。

全長約200メートルの商店街内にある12台に、全国から公募した中から選んだ阿波踊りやタヌキなどのアート作品をプリントした1メートル四方の特殊フィルムを貼り付けています。同日から近くの事代主神社で始まりました「えびす祭り」に合わせて、同月11日(土)まで参拝客などにお気に入りの作品に投票してもらうコンテストも開催しました。

トランスボックスへのアート展示は、令和2年で創立50周年を迎える同組合の活性化事業として実施し、四国では初めてで「街の美観向上とにぎわいづくり」を目的に公募しました。徳島の魅力をPRした作品は5年間掲示され、商店街の観光パンフレットにも作品や展示場所を掲載することとしています。



▲完成記念式典参加者による集合写真



グラプリに選ばれた作品▶
「阿波の夏夜」

新組合会館が完成 ～徳島市指定上下水道工事店協同組合～

徳島市指定上下水道工事店協同組合は、昭和45年1月に建設した組合会館（徳島市南末広町）が雨漏りや鉄筋の腐食などによる老朽化と南海トラフ地震をはじめとする災害への備えのため、組合会館を改築しました。

組合会館の改築工事は、平成30年4月から始まり、建設は順調に進み、令和2年2月8日に完成しました。

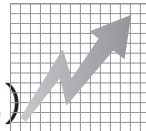
完成した組合会館は、引き続き組合事業活動の拠点を担い、1～2階が管工事用資材等を保管する倉庫、3階が事務所・会議研修室となっており、定期的な役員会、技術・技能資格者の養成を図るための各種資格取得に向けた講習会、資質向上を図るセミナーなどに活用することとしています。



新組合会館

令和元年12月

情報連絡員レポート(前年同月比)



この報告結果は、徳島県下の中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員 49 名に委嘱している中小企業団体情報連絡員による報告を抜粋掲載しております。

《全体の景況》

建設業関連では引き続き需要が順調。食料品製造業や生コンクリート業においても出荷量が好調であった様子。また旅行業でも一部需要が好調なところもあるとの明るい報告も寄せられた。

一方、技術者不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や燃料価格の高止まりに加えて、消費税増税の影響による収益の圧迫、年末需要の伸び悩みを嘆く声も寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、エスカレートする米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢に加え、消費増税及び軽減税率導入の影響等による国内外経済の下振れリスクが存在しており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

【製造業】

<食料品>

【味噌】対前月比、生産量は100%、出荷量は98.8%となった。主要原材料の米は需給が逼迫状態で政策のスタンスであるため、高値水準が続いており、コスト高となっている。

【漬物】11月と同様に漬製造業者では年末年始にかけての受注の消化をするのに労働者の不足により四苦八苦している。日本人労働者の募集をしても採用まで至らない、技能実習生に期待するしかない状態。

<繊維・同製品>

【縫製】生産性については、引き続き増員で生産数量に対処。一方、新設備導入を順次進めて、生産性向上を計る予定であるが、実行は次年度計画となる。

【縫製】市場の低迷。

<木材・木製品>

【製材】販売ルートは、県内外を問わず全体的に冷え込み、前年より悪化傾向が見られ、今後の行く先が解らず不安になっている状況である。

【木材】消費税増税後、景気の低迷がより一層こたえてきている。1月2月についても消費者の買い控えの影響が深刻さを増すだろう。

【木材】原木丸太出材量は多い状況に変わっていないが、年末にかけて一転、荷動き、価格ともに幾分鈍化傾向にあり、今後の需要動向に先行不透明感が拭えない。

<印刷>

【印刷】長い年末年始の休みを前に特需を期待したところだが、大きな動きはなかった模様。また、12月はイベントが盛りだくさんあったが、これも新たな需要を生んでいない。さらに消費増税に関しても、その反動減の影響が続いていると思われる。

【印刷】小売業からの販売促進物の引き合いが止まっている。毎月発行するレギュラーの販促物以外のスポット物が激減している模様である。やはり消費増税の影響をかなり受けているように思われる。例年12月は販促物の需要期であるのだが、全く盛り上がりがない。

<窯業・土石製品>

【生コン】対前年同月比、約37%増加。11月から引き続きトンネルの舗装用コンクリートの打設があったので、一時的に出荷量が増加したが、年度末に向けては落ち込み事が予想される。

【生コン】今年度の出荷数量については、前年を7%上回っており、期末予想としては昨年よりやや上回る見込みである。収益面においては、10月より生コン価格の見直しにより一部引き上げており、実績に繋がっている。

<鉄鋼・金属>

【鉄鋼】業況感に大きな変化はなく、企業によりばらつきはあるものの、設備操業度は低下傾向となった。景況感は横ばい。

【ステンレス】引き続き大手メーカーを中心に設備投資は堅調な推移となっている。

<一般機器>

【機械金属】売上高や引合いなど、一部で減少傾向が見られるものの、全体として、横ばい圏内の動きとなっており、景況感に大きな変化は見られない。

【非製造業】

<卸売業>

【食糧卸】不作のもち米も食文化の変化で、年末の売上低下。

<小売業>

【ショッピングセンター】売上高の前年対比は全店計92.6% (既存店89.7%)、客数93.7% (既存店89.4%)だった。年末の大型ショッピングセンターへのお客様の流出が響いているのだろうか。

【機械器具】増税後より明らかに消費動向が下向き。5%還元事業も対応出来ていない組合員が多くを占める。

【電気機器】消費税増税の影響が全般的に商品の動きが悪い。

【量小売業】暖かい12月だったが、一般家庭用の仕事がなく、ホームメーカの現場も少ない。材料の相場も買いやすくなってきた。

<商店街>

【徳島市】消費税アップの影響もあり、年末商戦というムードが感じられない。

【阿南市】クリスマスイベントは実施せず、静かな年末となった。

<サービス業>

【土木建築業】来年度発注工事(橋梁補修・耐震補強工事)が多くあり、前年度に比べると忙しかった。当然工事予算は増える見込み。

【自動車整備】販売台数の減少は今月も続く。その反面、前月と同様に軽自動車の中古車販売台数だけは微増。

【旅行業】バスを持っている会社はわりと良いようだが、旅行業だけでやっている所は厳しい状況のようだ。

【ビル管理】特に大きな変化はないが、取引条件が変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。これに伴うダメージが現れてくると思われる。

<建設業>

【建設業】技術者や技能労働者の不足は、相変わらずである。ダンプトラックが不足しており、土等の運搬が必要な工事は遅れ気味となっている。

【解体工事業】公共工事では学校関係発注および民間戸建解体工事についても活況。

【板金工事業】適度な仕事量でうまく廻っているようだ。

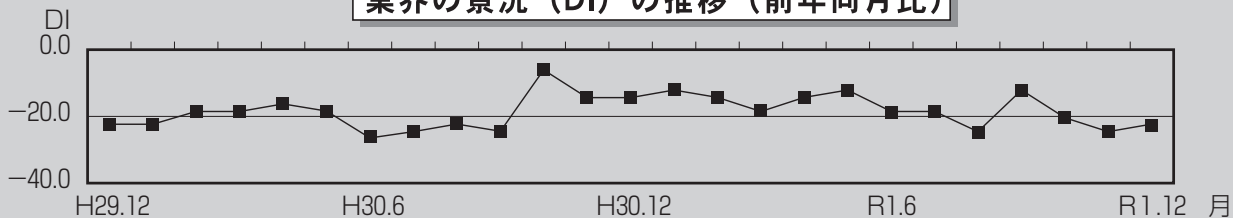
【電気工事業】新設住宅口数は174件であり、対前年比99.4%と微減。

<運輸業>

【貨物運送業】一般貨物輸送は、取扱業種により異なるが全般的に前年同月並みで推移。軽油単価は11月・12月と2ヶ月連続の上昇で今月は2円強、今年3月の水準まで高騰。時間外手当等人件費アップの中、収益面で厳しい状況となっている。

【貨物運送業】年末繁忙期であるのに、12月は例年ほどではなかった。消費税率の引き上げによる景気全体の低下が影響していると思われる。また、軽油価格の高止まりやドライバー不足も経営を圧迫している。

業界の景況 (DI) の推移 (前年同月比)



※ DI 値とは、各景況項目について「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値



青年部コーナー



青年部活動トピックス



◇令和元年度 商工 3 団体青年部四国トップ会議◇

令和 2 年 2 月 7 日(金) 土佐御苑において、令和元年度商工 3 団体青年部 四国トップ会議が開催され、徳島県中小企業青年中央会から 4 名参加致しました。

平成 28 年度四国トップ会議の決定により、平成 29 年度から 4 年間「防災」をテーマとして四国四県商工 3 団体青年部で以下のとおり協議していくことになりました。

- ・平成 29 年度 テーマ「災害時の相互支援に向けて」。四国四県各商工 3 団体青年部の防災取組状況や支援可能なこと等について協議致しました。
- ・平成 30 年度 テーマ「災害時の相互支援の内容について」。防災協定書に盛り込む項目について協議致しました。
- ・令和元年度 テーマ「防災協定書（案）について」。協定書の中身については「会長、副会長で無料通話アプリの「ライン」を利用して災害時に情報共有する」で決定致しました。
- ・令和 2 年度 テーマ「防災協定の締結について」。

四国トップ会議後の懇親会では、高知県商工会青年部連合会 会長 桑鶴太郎様に開会挨拶、香川県商工会議所青年部連合会 会長 富田直人様に乾杯の御発声を頂きました。後半、四国四県の各商工団体青年部の代表全員でジャンケンをして今年の幸運者を決定する等大いに盛り上がった後、香川県商工会青年部連合会 会長 川崎泰史様より中締めをしていただき、盛会裡に閉会となりました。



四国トップ会議



懇親会

◇令和元年度 組合青年部リーダー交流会議◇

令和 2 年 2 月 10 日(月) サンシャイン徳島アネックスにおいて、令和元年度 組合青年部リーダー交流会議を開催しました。フリーアナウンサー 藪田ひとみ氏を講師に招き、「自分の強みを知って自信を持ち、魅力的に演出しよう」をテーマにご講演いただきました。参加者 27 名の中、藪田氏より他人のことは良く見えても自分のことはあまり知らないことがあるとして、自分を知ることの必要性や自分の強み等自分を知る方法などを学びました。



フリーアナウンサー



藪田ひとみ氏の講演

◇令和元年度 新年互礼会◇

令和2年2月10日(月) サンシャイン徳島アネックスにおいて、令和元年度青年中央会新年互礼会が開催され、総勢39名にご参加いただきました。ご来賓として、徳島県商工労働観光部 副部長 春木尚登様、徳島県中小企業団体中央会 会長 布川徹様を始め、多数のご来賓の皆様をお迎えし、株式会社商工組合中央金庫徳島支店 次長 田村寛人様に乾杯のご発声をいただき、今年の青年中央会の活動への期待を込めて乾杯となりました。

最後に、徳島県商工会青年部連合会 会長 藤田良様より中締めをしていただき、盛会のうちに閉会となりました。



渡辺会長挨拶



県商工労働観光部副部長 春木尚登様（来賓挨拶）



徳島県中央会会長 布川徹様（来賓挨拶）



商工組合中央金庫次長 田村寛人様（乾杯）



商工会青年部連合会会長 藤田良様（中締め）



新年互礼会 全景

★今後のスケジュール★

- 令和2年3月下旬 徳島県商工3団体次世代プロジェクト事業会議
- 令和2年4月中旬 第1回役員会



女性部コーナー



女性部活動トピックス



◇エフエム徳島 42.195kmリレーマラソン in 徳島中央公園◇

令和2年2月9日(日)、とくしまレディース中央会の会員相互の絆を深めることを目的として「第2回エフエム徳島 42.195kmリレーマラソン in 徳島中央公園」に参加しました。

今期初氷を観測する寒空のもと、選手10名が襻をつなぎながら走りました。制限時間内でのゴールとはなりませんでした、多くの方からの応援のおかげもあり4時間8分50秒で完走することができました。

その後、選手・応援参加者での交流会を開催し、中本会長からは「とくしまレディース中央会が、未来に続いていくよう襻をつないでいきましょう」とのお言葉をいただきました。



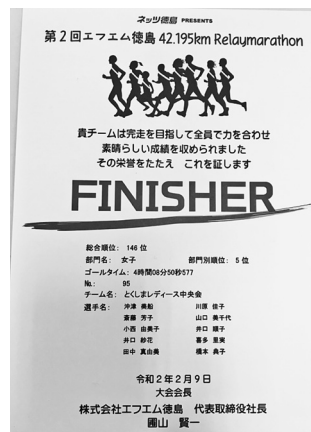
出場選手・応援者集合風景



襻を繋ぐ風景



出場選手・応援者のみんなでゴール！



完走証

◇令和元年度 とくしまレディース中央会研修会・新年交流会◇

令和2年2月17日(月) サンシャイン徳島アネックスにおいて、令和元年度 とくしまレディース中央会研修会を開催しました。徳島県労働委員会 会長 豊永寛二氏を講師に招き、「より良い労使関係を築くための基礎知識」をテーマにご講演いただきました。その後、柔道整復師会協同組合 専務理事 中本ユミ子氏、有限会社天野鉄工所 取締役 天野多栄子氏より、鳥取女性中央会の会員である(株)海産物のきむらや、千代むすび酒造(株)の視察に参加しての感想や鳥取女性中央会との交流で学んだことについて発表がありました。

研修会後の新年交流会では、ご来賓として、徳島県商工労働観光部 副部長 春木尚登様、徳島県中小企業団体中央会 会長 布川徹様を始め、多数のご来賓の皆様をお迎えし、株式会社商工組合中央金庫徳島支店 次長 田村寛人様のご乾杯のご発声により開宴となりました。会場は和やかな雰囲気にもまれ会員間の交流を深めることができました。

最後に、大樹生命保険株式会社徳島支社 支社長 八原功様より中締めをしていただき、盛会のうちに閉会となりました。



研修会風景①



研修会風景②



中本会長挨拶



県商工労働観光部副部長 春木尚登様 (来賓挨拶)



徳島県中央会会長 布川徹様 (来賓挨拶)



商工組合中央金庫次長 田村寛人様 (乾杯)



大樹生命保険徳島支社支社長 八原功様 (中締め)



新年交流会全景

★今後のスケジュール★

○理事会 (令和2年4月中旬 中央会会議室)



中央会トピックス

令和元年度モデル組合が決定されました ～徳島県鉄骨構造協同組合・協同組合徳島総合流通センター～

本会では、他の模範となる中小企業組合をモデル組合として認定し、その優れた共同事業運営の仕組みや社会貢献活動を県内各組合で共有化することで、県内中小企業の組織化推進及びレベルアップを図るため、モデル組合認定支援事業を実施しています。

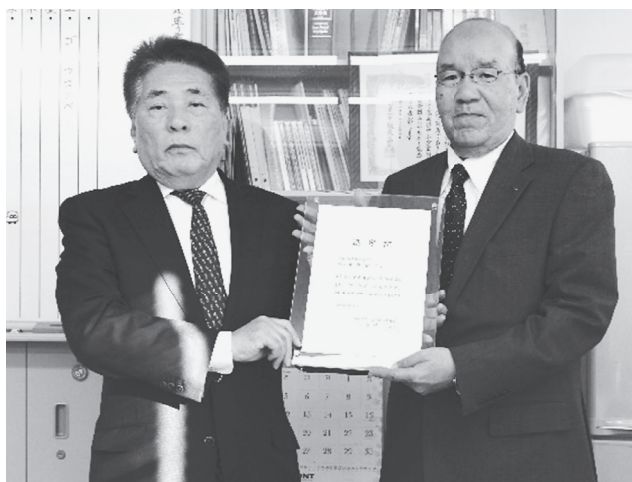
“モデル組合”の要件

本会会員組合であって、以下の全てを満たす組合です。

- ① 組合設立後 15 年以上経過していること。
- ② 組合の事業運営、組織運営が適切で、かつ財務内容が堅実であること。
- ③ 組合の事業が組合員の利用状況、事業規模の拡大状況等からみて活発に行われていること。
- ④ 専従役員が 1 名以上いること又はそれと同等の事務処理が可能な体制となっていること。
- ⑤ 中央会の指導を受けていること。
- ⑥ 根拠法、その他の法令に違反していないこと。
- ⑦ 定款が法令に違反していないこと。
- ⑧ 事業報告書、決算関係書類の作成方法等が法令に違反していないこと。
- ⑨ 過去 3 年間の決算において、連続して当期損失を計上していないこと。
- ⑩ 直近決算において、差引正味財産が出資額を下回っていないこと。

令和元年度“モデル組合”認定

令和元年 10 月 2 日に開催しましたモデル組合認定審査委員会において、2 組合（徳島県鉄骨構造協同組合、協同組合徳島総合流通センター）がモデル組合として認定され、モデル組合認定証を贈呈いたしました。



徳島県鉄骨構造協同組合



協同組合徳島総合流通センター

令和元年度“モデル組合”を紹介します

本年度、モデル組合として認定された事例を紹介しますので、事業運営や組織運営の参考にしてください。また、本会ホームページにモデル組合事例集として掲載する予定です。

徳島県鉄骨構造協同組合

住 所：徳島市新浜町1丁目1番7号

理事長：井原 常裕

設立年月日：昭和49年4月11日

主たる業務：建設業、鉄骨・鉄筋工事業

組合員数：26名

＜評価されたポイント＞

- ・教育情報事業が活発であり、特に国土交通大臣認定の「性能評価」の取得を組合で推進しており、組合員の「性能評価」取得のための技術支援・品質サポート制度を設けている。また、毎年各種検定の講習会を開催している。
- ・青年部活動も活発であり、四国青年部連絡協議会への参加、経営研究会や工場見学会等を毎年実施している。平成25年からの4年間は、徳島県立中央テクノスクールの校内渡り廊下を青年部が専門家として学生を指導し建設するなど社会貢献活動も行っている。
- ・溶接コンクールへ出場する県内の高校に対して、半自動溶接機を1台寄贈するほか鉄骨業に関するDVDを県内の実業高校へ配布するなど溶接技術振興にも注力している。

協同組合徳島総合流通センター

住 所：徳島市川内町平石流通団地51番地

理事長：美馬秀夫

設立年月日：昭和51年3月3日

主たる業務：卸売業、自動車整備業、運送業など

組合員数：40名

＜評価されたポイント＞

- ・設立から44年目の異業種組合であり、全組合員代表者参加の定例会のほか常設委員会を設置し毎月1回委員会及び研修会を開催している。平成28年からは若手による特別委員会である「ビジョン委員会」が発足した。
- ・毎月第1木曜日を「清掃の日」として、全組合員参加で各社・共同施設・道路の清掃活動を行っている。
- ・平成25年より毎年10月に、組合員と地域住民の方々を交えて合同避難訓練を実施。
- ・徳島の文化発展のため日本音楽コンクール入賞者の演奏会「リオデ音楽祭」を平成3年より開催し、今年度で29回目を迎えた。

エコアクション21 認証 10 年継続事業者感謝状贈呈式／ 環境経営セミナーを開催

令和 2 年 1 月 28 日(火)に徳島市の徳島グランヴィリオホテルにおいて、2019 年度のエコアクション 21 認証 10 年継続事業者感謝状贈呈式、環境経営セミナーを開催しました。

はじめに、エコアクション 21 認証を 10 年以上継続して取り組まれた事業者に対して、感謝状の贈呈式を行いました。対象の 14 事業者のうち、5 事業者に出席をいただき、エコアクション 21 地域事務局の橋本典子事務局長から感謝状と記念品を贈呈しました。

なお、エコアクション 21 認証 10 年継続の事業者は、下記の表のとおりです。

感謝状贈呈式後には、講師にエコアクション 21 審査員の三木孝司氏をお招きし、「エコアクション 21 産業廃棄物処理業者向けガイドライン 2017 年版の改訂ポイント」についてセミナーを開催しました。

今回のセミナーは、新しく改訂されたエコアクション 21 業種別（産廃）ガイドラインについて、県内産業廃棄物処理業者を対象に実施したもので、特に産業廃棄物処理業は、その事業活動による温室効果ガス排出削減、廃棄物リサイクル率の向上、水使用などの環境負荷低減など、より積極的な環境への取り組みが求められています。

今後も本会では、県内事業者の環境経営への更なる理解とエコアクション 21 の認証登録制度の周知・普及を図っていきます。



10 年継続事業者に感謝状を授与



環境経営セミナー開催

<エコアクション 21 認証 10 年継続事業者一覧>

No.	事業者名	市町村名	主な業種
1	有限会社ヤマト重機	三好市	建設業（設備工事業を含む）
2	有限会社リフレッシュ阿南	阿南市	廃棄物処理業・リサイクル業
3	有限会社中野商店	徳島市	廃棄物処理業・リサイクル業
4	株式会社徳島機械センター	徳島市	建設業（設備工事業を含む）
5	有限会社若木建設	徳島市	建設業（設備工事業を含む）
6	平岡産業株式会社	海部郡海陽町	建設業（設備工事業を含む）
7	有限会社荒木商店	徳島市	廃棄物処理業・リサイクル業
8	井下建設有限会社	三好市	建設業（設備工事業を含む）
9	株式会社百々組	海部郡牟岐町	建設業（設備工事業を含む）
10	マルワ環境株式会社	徳島市	廃棄物処理業・リサイクル業
11	葵建設株式会社	阿南市	建設業（設備工事業を含む）
12	中幸建設有限会社	阿南市	建設業（設備工事業を含む）
13	株式会社ドバシ	阿南市	建設業（設備工事業を含む）
14	賀上建設株式会社	阿南市	建設業（設備工事業を含む）

中小企業使える BCP（事業継続計画）訓練 モデル事業を開催

令和元年12月4日(水)～6日(金)、徳島県企業BCPの認定を受けている企業3社（日本フネン株式会社、株式会社姫野組、株式会社阿波酸素）を対象に、中小企業使えるBCP訓練モデル事業を実施しました。

本事業は、個々の企業に訪問し、それぞれの実情に合ったオリジナルの訓練を実施することで、BCPの行動手順や操作手順を確認し改善するとともに、各従業員のBCPに対する理解を深めるために開催しました。

訓練では、発災時に何を行う必要があるか、そのためにどのような準備が必要かについて参加者同士で話し合い、今後の検討材料の洗い出しを行いました。各社はそれぞれ訓練で得た気付きや課題を整理すると共に、訓練時に参加者が記入した「振り返りシート」を参考に、現状BCPの改善に繋げました。

なお、来年度のBCPトップセミナーにおいて、本事業を実施した各企業から当訓練の概要及び気付き、改善点等について、事例発表を行うこととしています。



訓練を行う徳島県企業BCP認定企業

BCP（事業継続計画）図上訓練を開催

令和2年2月17日(月)午後1時30分より、徳島市のろうきんホールにおいて、BCP図上訓練を開催しました。

講師に株式会社フォーサイトコンサルティング五十嵐雅祥氏をお招きし、図上訓練の演習方法について説明が行われた後、参加者40名（22企業等）が5班に分かれ、「災害発生時における時系列に沿った場面シミュレーション訓練」を実施しました。

参加者は擬似的な訓練をすることで情報収集分析力や先読み力を体得し、行動能力向上を図りました。参加者同士で意見交換し合うことで、新たな気付きを得られ、有意義な時間になりました。

最後に、講師から自社のBCPや各種マニュアルの見直しの重要性が述べられ、社員全員の防災意識の向上を図って欲しいと話がありました。



BCP図上訓練

組合活性化情報令和元年度第1号から中央会事務局職員が会員の皆様に、より親しんでもらえるよう、プライベートなこと（趣味、特技、熱中している物事、最近気になっている物事など）について、綴っていきます。第4回目は、組織支援課の藤原主事です。

藤原 有希 [組織支援課 主事]

亥年 乙女座 血液型B型／平成23年4月1日入職

①自己紹介

私は、岡山県高梁市で生まれ育ちました。高梁市は「備中の国」、松山藩として天守の残る唯一の山城「備中松山城」の城下町です。山々に囲まれたのんびりとした場所です。その後、2008年に結婚したことを機にこの徳島県にやって来て、阿南市に住み始め、約11年が過ぎました。初めのころは、知り合いが一人もいない場所で暮らすのは、寂しく、つらいと思うこともありましたが、現在ではたくさんの知り合いが出来、小学2年生の双子の息子もおり、寂しいと思う間もないような慌ただしい毎日を過ごしています。

②仕事と育児

双子の息子がまだ赤ちゃんの時は、昼も夜も交互に泣いて、自分自身も連続した睡眠を長期間とることができず、眠らない修行のような毎日でした。少し大きくなると、リレーのように様々な病気にかかり仕事を休ませてもらうことも多く、何度も、仕事を辞めるしかないと思うことがありました。そんな時、当時の上司が「子供はすぐに大きくなる、今を乗り切れば大丈夫だから頑張って」と励ましてくれ、先輩や同僚の方々にも助けられました。また、義母は、子供が小学生になった今も、私が出張の時や子供が病気の時、いつもあたたかく助けてくれています。たくさんの方々に迷惑をかけてきましたが、今仕事を続けることができ本当に良かったと思っています。

③これから

そんな私も、今ではすっかり徳島に住み慣れて、徳島のことが好きになっています。「住めば都」といいますが、都会だとか田舎だとかではなくて、その土地で知り合いができたり、たくさんの方々に助けられて、だんだんと、その場所を好きになっていくものだなあと感じています。

これも、組合の皆様や、中央会の方々、地域の方々のおかげだと思います。

これからも子供たちと一緒に自分自身も成長して、助けてもらった分誰かを助けられるよう頑張っていきたいです。



文字通りおんぶにだったこの時代



現在

編集 後記

◆ 第154号発刊にあたり、関係機関の方々からご協力いただきありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

◆ 特集では、「四国の元気な組合」を紹介させていただきました。今後の組合運営に役立てて頂ければ幸いです。ご不明な点等がありましたら、お気軽に中央会までお問い合わせ下さい。

◆ ものづくりの達人では、徳島最南端の海陽町の有限会社岡松バラ園様を紹介しています。同社は、敷地面積2.3ヘクタールの土地に、11棟のハウスを建ててバラを栽培されています。ハウスの近隣の山林を伐採することで育成環境を整備し、ハウス内のバラの生育に必要な環境維持管理を確立され、バラに対する深い愛情を感じました。さらに敷地内で飼われている羊が、バラの切り屑を食べて育っており、ゴミの減量化などの環境にも配慮されていました。この度は貴重なお時間を頂きありがとうございました。

◆ 第2回エフエム徳島42.195kmリレーマラソンにとくしまレディース中央会が出場すると聞き、応援に行きました。寒空の中、選手10名が一丸となりタスキをつなげながら一生懸命走る姿を見ることができ、元気付けられました。中央会女性職員も選手に加わり、普段と違う一面も見られ、穏やかな笑顔の中に女性の底力を感じました。また、素晴らしいチームワークで完走され、レディース中央会の横の繋がりや絆がより強まったことを感じました。選手の皆様、お疲れ様でした。

vol. 04

令和元年度 第4号
(年間4回発行 通巻第154号)

組合活性化情報 中央会とくしま



菜の花の里・江田 水彩画/布川 嘉樹